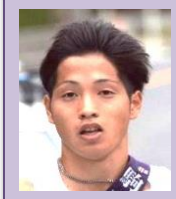
全日本大学駅伝 *駒大エントリーメンバー*

＊ほか3選手はP4へ

大塚祥平（4）大分 大分東明
5000m 13分57秒29
10000m 28分34秒31
昨年の三大駅伝では主要区間を任され、安定した走りを見せた。今期は5月に5000mで自己ベストを更新。学生最後の駅伝で駒大を優勝に導くため、初の区間賞獲得を目指す。

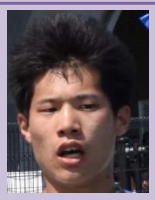
中村佳樹(4)愛媛・松山北
5000m 14分18秒33
10000m 29分26秒14
「夏合宿では積極的に練習に取り組み、今勢いがある選手」と主将・浅石からも期待が寄せられる。札幌ハーフマラソンでは、2位という好成績を収めた。最後の全日本駅伝出場成るか。



西山雄介（4）三重 伊賀白鳳
5000m 13分51秒19
10000m 28分58秒01
昨年の全日本駅伝では、3区を力走。6月には5000mの自己ベストを更新した。この1年間最上級生としてチームを引っ張る責任を常に感じてきた。駒大は勝利を手にすることができるのか、その鍵を握る。

工藤有生（3） 広島 世羅
5000m 13分52秒97
10000m 28分23秒85
駒大の次期エース。昨年の全日本駅伝、今年の箱根駅伝では共に2区を担当。どちらも好走を見せ、チームの順位を押し上げた。中谷がいない今大会でのエース級の活躍が期待される。

紺野 凌矢（3）福井 鯖江
5000m 14分16秒74
10000m 29分38秒62
昨年の全日本、箱根に続き、エントリーを果たした。暑さが苦手だと話していたが夏合宿では、監督から名前が挙がるほどの頑張りをみせた。出雲前の記録会では5000mで自己ベストをマーク。大学駅伝初出場となるか、注目したい。



高本真樹（3）福島 学法石川
5000m 13分58秒19
10000m 29分11秒68
昨年の箱根駅伝でメンバー入りを果たした実力のある選手。9月の日体大記録会では自己ベストを更新し、さらなる成長をみせた。昨年のリベンジをかけ、区間賞獲得成るか。

藤木悠太（3）長野 佐久長聖
5000m 14分09秒29
10000m 29分33秒60
着々と力をつけ、今年に入り大きな成長を見せている注目の選手。トラックでの経験を生かし、駅伝では「下りのスペシャリスト」として駒大を勝利へ導く活躍に期待が高まる。

片西 景(2) 東京 昭和第一学園
5000m 14分06秒59
ハーフ 1時間04分45秒
夏合宿後のシドニーハーフでは見事優勝、その後5000mでも自己ベストを更新するなど好調。昨年に続くエントリーとなった伊勢路でその走りを見ることができるか。

下 史典（2）三重 伊賀白鳳
5000m 13分54秒21
10000m 29分20秒17
昨年の三大駅伝に1年生ながらエントリー。前年度から確実に力をつけ、2年生で唯一5000mを13分台で走る。出雲では区間新記録を更新するも区間賞獲得を逃した。昨年唯一出場した全日本で成長した走りをみせる。

中村大聖(1)埼玉 埼玉栄
5000m 14分03秒48
10000m 30分32秒10
4月に初の1万mに挑戦するなど、多くの記録会に出場して経験を積んだ。監督は初めての夏合宿を乗り越え、調子が上がっていると期待を寄せる。1年生から駅伝出場を狙うルーキーに注目だ。